

令和元年度（第18回）「グリーン物流パートナーシップ会議」

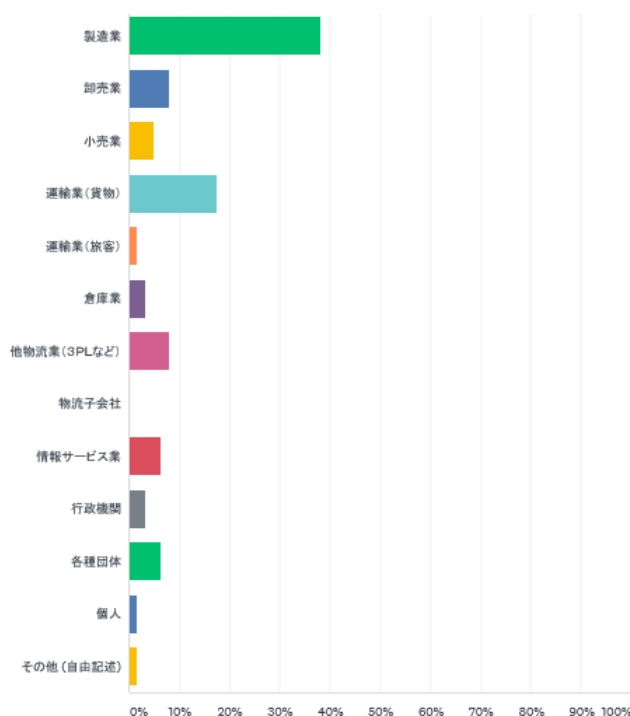
参加者アンケート調査結果

グリーン物流パートナーシップ会議 事務局

本アンケートは、令和元年度（第18回）「グリーン物流パートナーシップ会議」の参加者を対象にした Web アンケート調査の回答を集計したものです。

**Q1：参加者所属先の業種区分（主たるもの）**

**A1:**



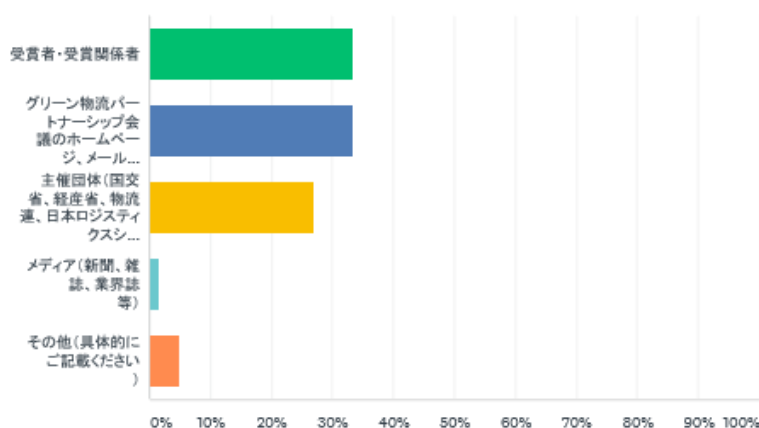
業種区分	回答者数 (N=63)	回答割合 (%)
製造業	24	38.1%
卸売業	5	7.94%
小売業	3	4.76%
運輸業（貨物）	11	17.46%
運輸業（旅客）	1	30.4%
その他物流業（3PL など）	5	7.94%
物流子会社	0	—
情報サービス業	4	6.35%
行政機関	2	3.17%
各種団体	4	6.35%
個人	1	1.59%
その他	1	1.59%

その他（主な自由記述）：メディア



**Q2：参加のきっかけ**

A2：

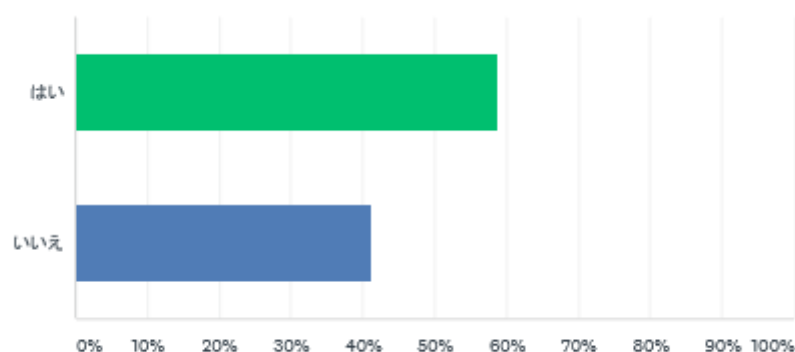


参加のきっかけ	回答者数 (N=63)	回答割合 (%)
受賞者・受賞関係者	21	33.33%
グリーン物流パートナーシップ会議のホームページ、メールマガジン	21	33.33%
主催団体（国土交通省、経済産業省、（一社）日本物流団体連合会、（公社）日本ロジスティクスシステム協会）のホームページ、メールマガジン等	17	26.98%
メディア（新聞、雑誌、業界紙等）	1	1.59%
その他	3	4.76%

その他（自由記述）：「プレスリリース」

**Q3：グリーン物流の推進に際してパートナーシップを通じた取組の有無（現状）**

A3:



取組みの有無	回答者数 (N=63)	回答割合
有	37	58.73%
無	26	41.27%



**Q4-1：現在取り組んでいるグリーン物流並びに物流の生産性向上のテーマ（複数回答可）**

**A4-1：**

取組中のテーマ	回答者数(N=63) ※複数回答可	回答割合 (%)
輸送ルート・輸送手段の工夫	34	53.97%
モーダルシフト	34	53.97%
共同輸配送	28	44.44%
帰り荷確保（帰り便活用）	18	28.57%
待ち時間の削減	15	23.81%
標準化（パレット、情報システムなど）	14	22.22%
機械化・自動化	13	20.63%
拠点集約	13	20.63%
取引条件（ロット、リードタイム、JIT、頻度など）の見直し	12	19.05%
ペーパーレス	8	12.70%
一貫パレチゼーション	7	11.1%
エコドライブ	7	11.1%
バース予約システム	6	9.52%
マッチングシステム	6	9.52%
環境優良車の導入	5	7.94%
貨客混載の活用	5	7.94%
検品レス	5	7.94%
電子タグの活用	3	4.76%
特になし	0	—
その他（具体的に）	5	7.94%

その他（主な自由記述）： 「コールドチェーン」



Q4-2：今後、取り組みたいグリーン物流並びに物流の生産性向上のテーマ（複数回答可）

A4-2：

取り組みたいテーマ	回答数 (N=63) ※複数回答可	回答割合 (%)
共同輸配送	32	50.79%
標準化（パレット、情報システムなど）	20	31.75%
輸送ルート・輸送手段の工夫	20	31.75%
モーダルシフト	19	30.16%
帰り荷確保（帰り便活用）	17	26.98%
機械化・自動化	15	23.81%
マッチングシステム	14	22.22%
待ち時間の削減	12	19.05%
一貫パレチゼーション	10	15.87%
拠点集約	10	15.87%
ペーパーレス	9	14.29%
貨客混載の活用	8	12.70%
取引条件（ロット、リードタイム、JIT、頻度など） の見直し	8	12.70%
検品レス	5	7.94%
エコドライブ	2	3.17%
電子タグの活用	2	3.17%
環境優良車の導入	1	1.59%
バス予約システム	1	1.59%
特になし	0	—
その他（具体的に）	4	6.35%

その他（主な自由記述）： 「コールドチェーン」

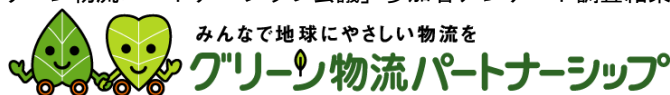


Q5：物流の生産性向上やグリーン物流の推進に向けて、今後、パートナーシップを希望する相手（複数回答可）。

A5：

パートナーシップを希望する相手	回答者数 (N=63) ※複数回答可	回答割合
運輸事業者	42	66.67%
発荷主（調達先）	34	53.97%
着荷主（販売先）	31	49.21%
倉庫事業者	24	38.1%
同業他社	20	31.75%
行政	15	23.81%
3PL	9	14.29%
システムベンダー	9	14.29%
消費者	1	1.59%
特になし	0	—
その他（具体的に）	2	3.17%

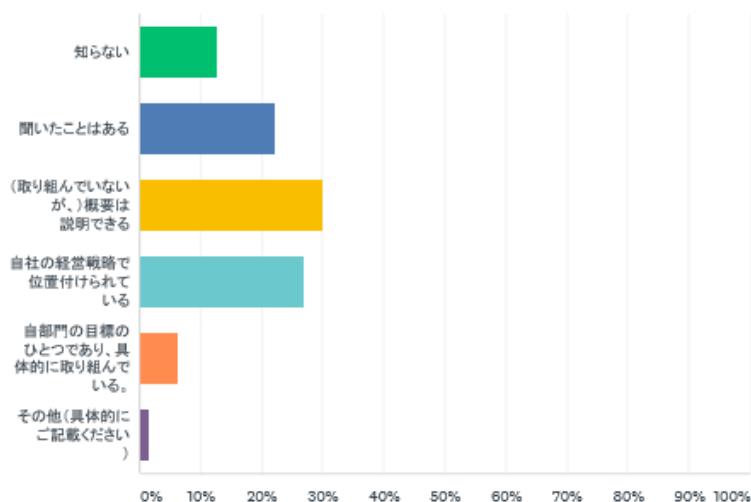
その他（主な自由記述）： 「サプライチェーン」



**Q6-1：SDGs（持続可能な開発目標※）の認知度や取り組み状況**

※2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載の2016年から2030年までの国際目標のこと。

**A6-1：**



SDGs の認知度	回答者数(N=63)	回答割合
知らない	8	12.70%
聞いたことはある	14	22.22%
(取り組んでいないが)概要は説明できる	19	30.16%
自社の経営戦略で位置付けられている	17	26.98%
自部門の目標のひとつであり、具体的に取り組んでいる	4	6.35%
その他(具体的に)	1	1.59%

その他（主な自由記述）：「SDGs とリンク付けした取組みに向けて勉強中」

**Q6-2：SDGs に関わる自社の具体的な取り組み（自由記述）。**

**A6-2：**

- CSR の取組として環境保全活動（太陽光発電設備の設置など）などは実施している。
- 使用済み紙おむつのリサイクル、高齢者の健康寿命延伸、低出生体重児支援、海外女性就労支援など
- ホワイト物流の推進、自主行動宣言を提出済（同1件）
- 作る責任、使う責任：環境配慮型製品開発、廃棄物の削減など
- CO<sub>2</sub>削減、輸配送の平準化・標準化
- 脱プラスチック



Q6：今後、グリーン物流の実施、グリーン物流の普及・促進に向けて、グリーン物流パートナーシップで対応して欲しい活動、提供して欲しい情報等について（自由回答）。

A6：

- 初めて参加させていただきましたが、物流業界をリードする取組みを拝聴させていただき大変勉強になった。
- 海外とのさらなる連携。HPを英語化するだけでも、日本の国力も含めて様々な具体的な施策ももっと共有していけると思います。
- 若者や女性が活躍できる物流活動環境（職場・教育）を整備し、次世代の活力ある活動が出来るように推進して頂きたいと思います
- 発荷主や運送事業者の案件が主なので、卸や小売と連携した企画があると良いと思います。
- 過去表彰された取り組み内容が持続されているか、また、持続出来ていない場合の理由等、を公表して頂きたい。
- マッチングを可能にする補完し得る他社情報が必要。現在は運送事業者の困りごと対応に追われている。更なる効率化には広く情報提供出来得る核になる発信元が必要。場当たりの個別対応では限界を感じている。

以 上

当日のご参加とアンケートへの回答ありがとうございました。